

見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち

December 2020 vol.80

December						
S	M	T	W	T	F	S
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

◆ 下佐脇村

所在地：豊川市御津町下佐脇

交通：JR 東海道本線「愛知御津」駅 南東 約 1km

三河湾に面する豊川市は、東三河地域において、太平洋岸に面する豊橋市や田原市と比べ、地震による津波被害は少ない地域ですが、過去いくつかの記録が残されています。

被害の記録の残る地震のひとつが、宝永 4（1707）年の宝永地震です。宝永地震では、太平洋岸には 10m を超える津波が襲ったとも言われていますが、三河湾内にも津波が及びました。下佐脇村は、江戸中期には人口 1,000 人程度、戸数 200 軒余りの一帯で最も大きな村で、農業を中心にアサリやノリの採取、製塩などが営まれていました。村は三河湾と音羽川に面しているため、宝永地震以前にも、度重なる暴風雨により被害を受けてきましたが、宝永地震の津波では特に被害が大きく、塩田が全滅し、水田や畑も被害を受けた記録が残されています。

この他、同様に三河湾に面する大草村、^{なぎの} 浮野村でも宝永地震による津波の被害の記録があり、大草村では 8.5km にわたり堤防が破損しています。いずれの地域も、農業を中心としながら農閑期に製塩が営まれており、地域住民の生活を支えていた塩田が、津波で大きな被害を受けました。

豊川市では、嘉永 7（1854）年の安政東海地震でも津波による被害が発生しています。安政東海地震では、三州五か湊のひとつ、御馬湊で、津波のため 250 俵が海面に引き出された、との記録が残っています。御馬湊は、御城米江戸回航基地のひとつで、各地から湊に集積されていた年貢米が、津波で流出する被害を受けたことがわかります。

さらに、地震の時代は定かではありませんが、伊奈町の東漸寺は、もともと前芝村にあったものが、明応元（1492）年以前の津波により、本尊の地蔵尊が伊奈の地に漂着したので、村人が堂宇を建て、以後、これを東漸寺とした、との言い伝えがあります。（裏面参照）

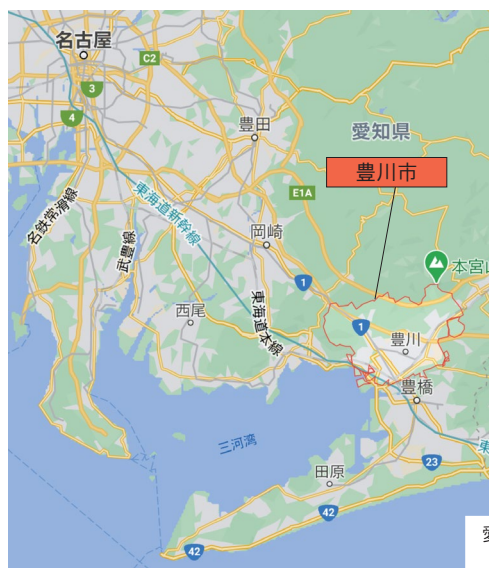
ここに挙げた津波被害の記録は、パンフレット「愛知県東三河地域における地震による津波の歴史」や「東三河津波歴史調査研究業務報告書」（いずれも東三河地域防災研究協議会）に、わかりやすくまとめられています。

こうした過去の津波被害も教訓に、2020 年 6 月には、御津町佐脇浜の御津臨海緑地に、津波避難用高台が整備されました。高台は、津波発生時に御津の臨海地区の企業の従業員などの安全を確保するためのもので、標高 16.5m、2,000 m²の頂上部には約 2,000 人が避難できます。また、避難先を示す目印として、津波注意報の発令で発光し、津波警報や大津波警報の発令で発煙する避難誘導装置「のろしグナル」が、地元の企業により設置されています。

御津の臨海地区では、東日本大震災後の 2011 年秋から、立地企業により自主防災組織「御津臨海企業懇話会」が組織されています。南海トラフ地震で、この場所で想定される津波高は 2m 程度ですが、想定を超える津波に対する備えとして、避難用高台の造成中から毎年、避難訓練が行われており、企業の自主防災組織による自発的な取組として、貴重な事例となっています。



津波避難用高台（豊川市 HP より）



愛知県東三河地域における地震による津波の歴史

◆ 災害にまつわる碑や史跡には、実際にその地域で起こったことが記録されているだけでなく、当時の人たちの思い（二度と被害を繰り返さないように、など）が込められています。碑や史跡の前では、災害が実際にこの地域で起こるということを実感していたととも、そうした先人たちの声に耳を傾け思いを巡らせ、身の回りの備えにつなげ、これからの防災に活かしてください。

◆下佐脇村の周辺には…

● とうぜんじ 東漸寺

所在地：豊川市伊奈町縫殿

交通：JR 東海道本線「西小坂井」駅 西 約 500m

「前芝村に東漸寺という寺があったが、廃寺となり本尊の延命地藏尊一体が小堂に祀られていた。ところが津波（明応元（1492）年以前）により、こ



この本尊の地藏尊が伊奈の地に漂着したので、この地藏尊を本尊とした」という言い伝えがあります。

● 平井八幡社

所在地：豊川市平井町堺畑 交通：JR 東海道本線「西小坂井」駅 南 約 1km

天文年間の初期（1532 年頃）の大洪水によって社殿が流出し、加茂の照山の麓に流れ着いたと伝えられています。

◆詳細な地図は『歴史地震記録に学ぶ 防災・減災サイト』（<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>）をご覧ください。

★ どんき

どんきは、豊川市下佐脇の長松寺に祀られる秋葉三尺大権現の火防大祭の行事で、200 年以上の歴史があります。毎年 12 月の第 3 日曜日に開催されています。

火防の祈祷後、秋葉山の使いである白狐が「どんき」と呼ばれる撞木をもち、槍を持った青天狗、八つ手の団扇を持った赤天狗とともに、寺の境界で子供たちを追い回し、捕まえては紅ガラ（食紅）を身体に塗り付けます。紅ガラを塗り付けられた人は、一年を無病息災に過ごせると言い伝えられており、怖がって逃げ惑う子どもたちや、無病息災のために自ら塗られに行く親子などで一帯が賑わう、ユーモラスな奇祭です。



Aichi Now HP より

あいちの農産物

レタスには、葉を巻く玉レタスと葉を巻かないリーフレタスがあります。リーフレタスのうち、葉先が赤紫色で、表面が縮れているものがサニーレタスで、昭和 47 年に豊橋市の農家によって命名・出荷され、いまでは全国的に栽培されています。



愛知県園芸農産課 HP より

愛知県内の主な産地は豊橋市、田原市で、出荷の多い時期は 12 月から 2 月にかけてです。

レタスは、包丁で切ると傷みやすいので、手でちぎって盛りつける方がおいしく味わえます。

● ブレイクタイム ●

♪ とよかわトマトケチャップ

トマトケチャップは、明治 41 年、カゴメにより日本で初めて製品化されました。その後、洋食の普及とともに需要を伸ばし、今では、食卓に欠かせない調味料となっています。

国内の約 6 割のシェアを誇るカゴメでは、一日 350 万本以上を生産しており、そのすべてを豊川市の小坂井工場で製造しています。豊川市で生産されるトマトケチャップは、「とよかわトマトケチャップ」として、市の優れた地域資源を認定する「とよかわブランド」に認定されています。



豊川市観光協会 HP より

◆この地域の災害に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などの情報がありましたら、gensaisan2014@gmail.com まで情報をお寄せください。

◆県内の歴史地震記録をホームページで紹介しています。各地の碑や史跡等にご興味をお持ちいただけましたら、『歴史地震記録に学ぶ 防災・減災サイト』（<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>）をぜひご覧ください。

（発行：減斎の会・名古屋大学減災連携研究センター 2020 年 12 月）

